

特集

クラブアドバイザーも 資質・技術の向上を目指して

クラブを運営されているみなさまに寄り添って活動をしているクラブアドバイザー。
そのクラブアドバイザーは、一堂に会して資質・技術向上のための研修を毎年受けていることをご存じですか？ 今回はその研修の様子をご紹介します！

クラブアドバイザーとは？

クラブアドバイザーは、総合型クラブが地域スポーツの担い手として重要な役割を果たしていけるよう、クラブの創設から自立・活動までを一体的にアドバイスすることを目的に活動しています。

日本体育協会では、平成27年10月時点で33都道府県体育(スポーツ)協会に33名のクラブアドバイザーを配置しています。



クラブアドバイザーミーティングとは？

日本体育協会が配置しているクラブアドバイザー等を対象に、その資質と技能の向上を図ることを目的に実施しています。

平成27年度は、「総合型クラブが持続可能な活動を図る上で必要となる『人材の育成』」や「スポーツ少年団との連携・協働(スポーツ少年団リーダー・指導者制度の理解など)」を主な内容として、5月と9月にそれぞれ2日間の日程で行われました。

第1回 5月19日(火)・5月20日(水)

講演

クラブライフとスポーツボランティア

■ 講師：二宮 雅也氏(文教大学准教授)

スポーツボランティアは、「地域住民のクラブ運営への参画促進」という観点からも大変重要であるため、スポーツボランティアに造詣の深い二宮氏より講演いただきました。

講演を受けて、各クラブアドバイザーは、「総合型クラブがボランティアの参画を促すために取り組むべきこと」と「クラブアドバイザーとしてどのような助言ができるか」をテーマにグループワークを行いました。



講演内容(一部)

- スポーツ参加は多様化しており、「する」「みる」に加えて「支える」への関心が高まっている。
- クラブを支えるボランティアは、そう簡単には育たないため、中長期的な計画で育てる必要がある。
- スポーツの語源は「Deportare (ラテン語)」で日常的苦勞からの解放、気晴らし、休養、遊びといった意味があり、ボランティアの語源は「Voluntarius (ラテン語)」で義勇兵という意味で、「無償制・社会性」といった要素は含まず、「自発性」のみである。共通することは、自らの意思において活動するということ。
- スポーツボランティアにとって、一番の喜びは、全力でプレーした選手からの「感謝」の言葉や、周囲からの「レコグニション(認められること)」。
こうした環境を、スポーツをする人、みる人、支える人の間でお互いに構築できるかが鍵である。

講演

『スポーツ宣言日本』を考える

■ 森丘 保典(日本体育協会 スポーツ科学研究室室長代理)

日本体育協会が総合型クラブの育成等を行う際の必要な取組を掲げている「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」は、2011年に本会とJOCが創立100周年を迎えたことを契機として策定した「スポーツ宣言日本」を基軸としていることから、まずは同宣言について解説し、理解を深めました。

講演後には、同宣言と育成プラン2013との関係について説明を行いました。



講演内容(一部)

- スポーツ宣言日本には、「スポーツは自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化である」と明記されている。
- 「自発的な運動の楽しみとは？」を考える材料として、オランダの文化史家であるヨハン・ホイジンガの書籍「Homo Ludens (ホモ・ルーデンス)」を紹介。
人間の文化はすべて「遊び」から生まれた。遊びは、ある一定の時間・空間の範囲内で行われる自発的行動もしくは活動である。

第2回 9月8日(火)・9月9日(水)

1 講演

総合型クラブとスポーツ少年団の連携事例

■ 講師：米谷 正造氏(川崎医療福祉大学教授)

総合型クラブとスポーツ少年団のいずれにも精通している米谷氏から、その知見とご自身が関わる「きよねスポーツクラブ」の事例等を交え、講演をいただきました。

講演後には、3名のクラブアドバイザーより総合型クラブとスポーツ少年団が連携・協働している好事例の紹介や「総合型クラブとスポーツ少年団の連携・協働に向けてクラブアドバイザーができること・できないこと」等をテーマにグループワークを行いました。



講演内容(一部)

- スポーツ少年団では、「スポーツ少年団指導者全国研究大会」の分科会において、1996(平成9)年から総合型クラブをテーマとして扱っている。
- 総合型クラブとスポーツ少年団は同じような理念を掲げているにも関わらず、さまざまな理由により連携が図られていない実情もあるが、それを乗り越え、良い連携・協働の事例が見られ始めている。
- 総合型クラブとスポーツ少年団が相互補完して、地域のスポーツを推進することが求められている。

紹介された好事例(一部)

- 初心者向けの指導をクラブが行い、上達した子どもの能力を判断し、自主的に少年団を紹介する。
- クラブと少年団の合同練習を行う。
- スポーツ少年団の組織は別であるが、総合型クラブに全団員が加入しており、個々人でクラブ事業に参加している。
- 総合型クラブで実施しているジュニアプログラムの一部を単位団として登録することにより、スポーツ少年団が開催するスポーツ大会やリーダースクール等の各種事業に参加している。

スポーツ少年団のリーダー・指導者制度

講演

■ 講師：小出 利一氏 (NPO法人新町スポーツクラブ)

リーダー出身指導者の半生と新町スポーツクラブの人材育成システム

■ 講師：近藤 亮太氏 (NPO法人新町スポーツクラブ)

スポーツ少年団の制度を活用してクラブの人材育成に取り組んでいるNPO法人新町スポーツクラブの小出利一氏、近藤亮太氏より、その事例を紹介いただきました。

講演内容 (一部)

- スポーツ少年団が大島鎌吉氏 (1964年東京オリンピック競技大会日本選手団長) をはじめとした先達による青少年の健全育成や世界平和への熱い想いで創設されたという経緯。
- スポーツ少年団員の模範やまとめ役・指導者のサポートを行うリーダーが、スポーツ少年団の理念を伝える指導者へと成長するサイクルを目指しているリーダー・指導者制度の概要。
- スポーツ少年団のリーダー・指導者制度によって自分自身が成長した過程・体験談 (近藤氏)。

